

舞鶴市廃棄物減量等推進審議会(第5期)第6回会議 摘録

- 【日時】令和元年11月26日(火) 午前10時30分～午前11時30分
【場所】市役所別館6階 大会議室
【出席委員】青山委員、内海委員、木谷委員、品田委員、田中委員、谷口委員、
西山委員、森委員、山川委員
(12名中9名出席、有効に成立)
【事務局】市民文化環境部長 西嶋、環境対策室長 井田、生活環境課長 福田、
清掃事務所長 橋本、リサイクル事務所長 上枝
【傍聴者】2人

1. 開会
2. 議題

- (1) 一般廃棄物(ごみ)処理手数料の見直しについて【中間答申】(案)
事務局から「一般廃棄物(ごみ)処理手数料の見直しについて【中間答申】
(案)」(資料1)について説明。

【修正内容】

- ①8 ページ 8行目 「『繫』がるため～」⇒「『つな』がるため～」
②8 ページ 21行目 「『繫』いでいくため～」⇒「『つな』いでいくため～」
③8 ページ 29行目 「施設の費用増加～」⇒「施設の『運営』費用増加～」

【意見等】

- (青山副会長) 舞鶴市の1人あたりのごみ排出量が全国平均や京都府平均に比べて多いのはなぜか。
- (福田課長) 考えられる大きな要因として、本市のごみ全体の8割を占める可燃ごみのうち、その半分以上を紙類と食品ごみを始めとする厨芥類が占めていることが挙げられる。こうしたところにさらなるごみ減量や資源化の余地があるものと考えている。
- (青山副会長) 海外では、製品を製造する企業がプラスチックを使う責任を意識し、ペットボトルのデポジット制のような資源化の取り組みを積極的に進めている。日本は企業側の責任意識がまだ薄いと感じている。
- また、海外では企業が出すごみの量に応じて負担金を出し合い、プラスチックごみを処理する仕組みをつくっている。個々の自治体だけでできるものではないが、日本全体でこうしたことに取り組みれば、プラスチックごみの発生抑制につながるのではないかと。
- (山川会長) 日本でも同じ取り組みはあるが、ドイツなどでは収集から企業が行い、処理にかかる費用を全て企業が負担する。日本では収集するのは自治体であり、企業側の負担割合が小さいことが課題である。

【その他】

山川会長より、当日欠席の尾上委員のコメントを紹介。

「中間答申までの議論は、市民負担についての議論が主だったものでした。計画の中間見直しの議論では、市民がメリットを感じられるような取り組みについて話し合うことができればと思っています。」

(2) その他

①中間答申書の提出について

事務局から、中間答申書の提出について次のとおり提案した。

- ・事務局にて中間答申（案）の修正を行ったのち、11月26日13時から、市長に対して山川会長と品田副会長にて中間答申書を提出する。
⇒ 一同了承。

②一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の中間見直しについて

事務局から、「一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の中間見直しについて」（資料3）について説明。

【意見等】

（田中委員）不燃ごみ（ペットボトル・プラスチック容器包装類・埋立ごみ）の有料化について、市民の意見を聞く機会は何かしら必要だと思う。市民向けのアンケート等は行わないのか。

（福田課長）今後、市としてごみ処理手数料の見直しにかかる方針を固めたうえで、どのように市民に周知・説明し、意見を聞くのか検討したい。

（谷口委員）公共施設でのペットボトルやプラスチック容器包装類の拠点回収の回収量や、スーパー等での店頭回収での回収量はわかるのか。

（福田課長）拠点回収の回収量については市で把握している。店頭回収については、マイ・リサイクル店に照会する等により把握に努める。

（山川会長）清掃事務所の長寿命化工事により、飛灰はリサイクルすることだが、焼却後に残る主灰はどのように処理するのか。

（橋本所長）長寿命化工事を検討するにあたり、焼却灰（主灰）についてもリサイクルを検討したが、最終処分場に埋め立てる方がリサイクルするよりもコストが安いことから、現状と同様に最終処分場で埋立処理する予定でいる。今後リサイクル技術向上の動向を注視しつつ、よりよい処理手法について継続して検討していきたい。

なお、飛灰は市外でセメント原料の一部としてリサイクルされる。

（山川会長）補足をすると、飛灰は有害物質が多く処理費用がかかるので、その処理費用とリサイクル費用を比較すると、リサイクルした方が安価であるということだと思う。

(了)